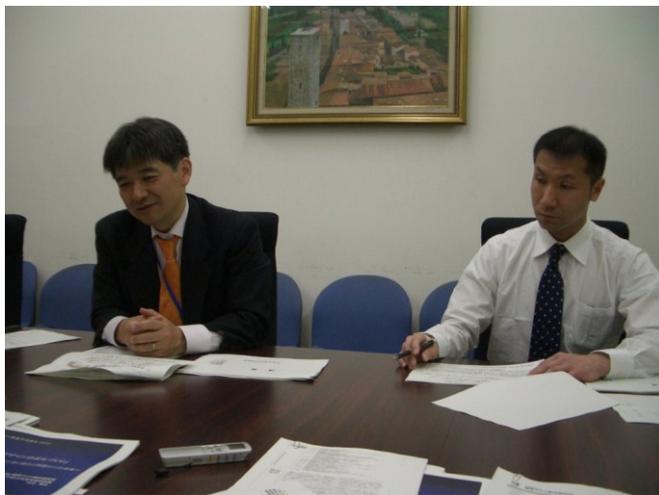


IAUD Newsletter vol.5 第3号 (2012年5月号) 目次

1. 特集：信頼のある、誰にでも使いやすい通貨を 財務省に聞く・・・・・・1
2. IAUD 6月の行事予定・・・・・・6

信頼のある、誰にでも使いやすい通貨を

特集：第1回省庁インタビュー 財務省理財局国庫課に聞く



「国際ユニヴァーサルデザイン会議 2012 in 福岡」の開催まで半年を切り、実行委員会を中心に着々と開催準備が進められています。Newsletterは今後、国際会議にご協力いただく各省庁に、UDへの取り組みや国際会議に対する期待等のインタビューをしていきます。第1回目は、国際会議でUDの取り組みを展示する財務省に、UDに配慮した通貨発行の内容や政策等を、理財局国庫課長の渡部晶氏と同課通貨企画調整室管理係長の根本裕志氏にお話を伺いました。

(聞き手：西村澄夫 IAUD 副理事長/情報交流センター所長、川原啓嗣 IAUD 専務理事、川原久美子 IAUD 事務局長)

通貨に対する信頼の維持

渡部：財務省の政策目標は、通貨に対する信頼を確保しつつ、健全で活力ある経済及び安心して豊かな社会を実現するとともに、世界経済の安定的発展に貢献することです。通貨に対する信頼の維持は財務省の任務の一つであり、そのために、紙幣と貨幣の発行や製造計画の策定、通貨偽造の防止、さらに記念貨幣の発行を実施しています。

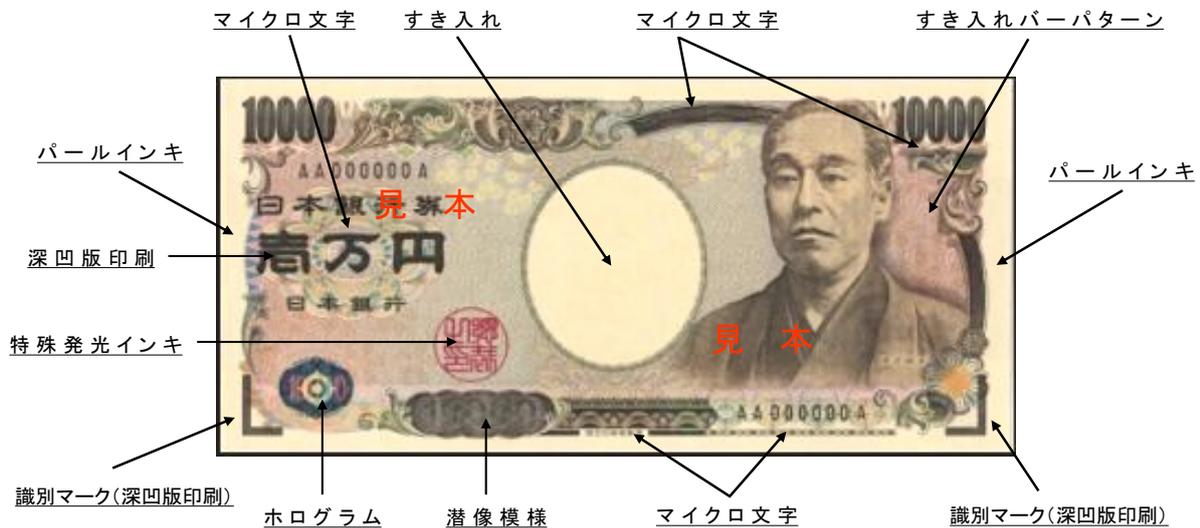
川原啓：日本は世界でもトップレベルの偽造防止技術とされています。

渡部：記念貨幣発行の目的の1つに、新しい偽造防止技術の実証があります。紙幣については、短いサイクルで仕様変更される切手等で培われた技術を紙幣に活かしています。通貨の製造は、貨幣は造幣局が、紙幣は国立印刷局が行っています。



壹万円券に盛り込まれた偽造防止技術

【表面】



渡部：偽造防止技術はいろいろありますが（上図参照）、その中でUDに関連するもの一つに識別マークがあります。識別マークは目の不自由な方が指で触って識別できるよう、深凹版印刷でザラザラ感を作っています。

これは凹んだ画線を持つ印刷版面にインキを転移し、表面の余分なインキをふき取って強圧をかけて用紙に転移させると、インキが盛り上がった印刷物になり、ざらついた手触り感があります。インキも粘り気のある速乾性のある特殊なもので、国立印刷局が独自に開発しています。

復興のための記念貨幣



渡部：日本では大きな記念事業があった場合、記念貨幣を発行しています。

最新の記念貨幣は「東日本大震災復興事業記念貨幣」です。東日本大震災からの復興事業を国民的事业として記念して、国民の相互扶助と連帯の精神に基づき、集中復興期間の最終年度である平成27年度に、一万円金貨幣と千円銀貨幣を4次にわたって発行するものですが、地元の方にも大変喜んでいただいています。コインのデザインになっている「奇跡の一本松」を、永遠の形で残すことができました。

また、地方自治法施行60周年を記念して、2008年から8年間にわたり、47都道府県ごとの図柄によって貨幣を発行しています。

記念貨幣

東日本大震災復興事業記念貨幣



○本記念貨幣は、東日本大震災からの復興事業を国民的な事業として、プレミアム型の一万円金貨幣及び千円銀貨幣を各4種の図柄で限定発行。

○第1次分は、造幣局が作成した図柄を採用し、第2次分から第4次分の図柄は、公募されたデザイン案から採用。

<東日本大震災復興事業記念貨幣(第一次発行分)の形式等(イメージ)>

額面	一万円	千円
個別面	 復興特別区域の地図とハト	 大漁船と稲穂
共通面	 「奇跡の一本松」とハト	 「奇跡の一本松」とハト
素材・品位	純金	純銀
量目	15.6g (1/2トロイオンス)	31.1g (1トロイオンス)
直径	26.0mm	40.0mm
販売価格	今後、検討の上、決定。	
発行枚数	枚数を限定して発行。	

(注1)「通貨の単位及び貨幣の発行等に関する法律」において、記念貨幣は、閣議の決定を経て発行することとされており、またその発行枚数、素材、品位、量目、形式(図柄)、販売価格等は、政令で定めることとされているため、今後、詳細が確定次第、改めて発表する。なお、千円銀貨幣は彩色を施したカラーコインとなる予定。

(注2)プレミアム型記念貨幣は、素材に貴金属を使用することから、貨幣の製造等に要する費用が額面価格を上回ることになる。なお、本記念貨幣は、全てブルーフ加工(特殊な技術を用いて製造し表面に光沢を持たせたもの)を施したものになる。

(注3)本記念貨幣は、復興応援国債(第801回債)を一定額以上ご購入頂いた方に贈呈するとともに、一部を造幣局から抽選販売する予定。なお、復興応援国債をご購入頂いた方には、国債購入者限定特製ケースに入れて贈呈。

西村：カラーコインの流通は考えていないのですか。

渡部：将来的にはその可能性もありますが、現在、一部の記念貨幣に採用している段階です。

UDへの取り組み

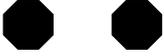
渡部：我々は高度な偽造防止技術を持つ通貨を発行すること、全ての方が使いやすい通貨を供給することが重要と考えています。特に、目の不自由な方のためにも配慮したUDについては、偽造防止技術を考慮しつつ研究・検討をしています。

日本では1984年に、お札の左下を手で触ると凹凸が感じられる「すかし」の技法を使った識別マークを採用しました。これが目の不自由な方のためにも配慮したUDへの具体的な取り組みの始まりです。

その後、2000年に発行した二千円札では、「深凹版印刷」で●を縦に3つ並べた識別マークを採用しました。すかしによる識別マークと比べると、よりザラザラした感触になりました。2004年には、同様の技術を一万円札、五千円札、千円札にも採用しています。

D二千円券、E一万円券、E五千円券、E千円券の発行

国立印刷局が速乾性のインキを開発したことにより、深凹版印刷による識別マークを採用することが可能となった。

		<p>点字で「に」を図案化したマークを左右の下側に採用</p>
		<p>L字形マークを左右の下側に採用</p>
		<p>八角形マークを左右の下側に採用</p>
		<p>横一文字マークを左右の下側に採用</p>

川原啓：すかしから変えた理由は何でしたか。

根本：当時は、すき入れによって識別マークをつけることにしましたが、その後、国立印刷局が速乾性のインキを開発したことにより、深凹版印刷による識別マークの採用が可能になりました。

川原啓：視覚障害者の方々の反応はどうですか。

根本：いろいろですね。以前と比べてわかりやすくなったという意見も頂戴しましたが、もっと分かりやすくする努力が必要という意見も頂戴しております。



渡部：識別マークをもっと盛り上げることも可能ですが、ATM等での「処理しやすさ」とのバランスを考えることも必要です。目の不自由な方への配慮はもちろん重要ですが、機械での「処理しやすさ」との両立がなかなか難しい。

川原啓：他国の例ではどんなものがありますか。

渡部：カナダでは全券種とも同じ大きさのため、携帯型券種判別機を開発し、目の不自由

由な方に提供しています。イギリスやユーロ圏では、券種毎に大きさを変えています。

西村：通貨製造にかかるコストはどれくらいですか。

渡部：製造枚数によって変わりますが、近年における紙幣1枚当たりの製造費用は約14～17円です。また、貨幣1枚当たり（記念貨幣を除く）の製造費用は約15～17円です。最近では、10円を除く50円以下の少額硬貨はほとんど製造をしていませんが、100円貨は今年度からクリーン化を実施しているため製造量が増えています。クリーン化とは、古くなって磨耗した貨幣を回収し新しい貨幣を供給することで、流通している貨幣の品質を維持することです。

川原啓：五万円札や十万円札など、高額紙幣発行の予定はありますか。

渡部：経済の爆発的な成長がなく、また、実際の取引に支障を来たしているわけではないので、高額券を発行する状況ではありません。

日本通貨に対する高い信頼



渡部：我々は通貨の偽造・変造を防止する環境を整備していますが、日本は通貨の発行枚数に比べると偽造は世界的に見ても非常に少ない状況です。

流通額（日本銀行から市中に出た総額）も、日本は約1兆ドルと諸外国に比べて圧倒的に多くなっています。それは通貨が使いやすく、偽造がないという信頼があるからだと思います。アメリカでは、お店で100ドル札をすんなり受け取ってもらえません。必ず本物か確認されます。しかし日本では、一万円札を普通にどこでも、自動販売機でも使えます。

す。外国の方が日本に慣れたと思うのは自動販売機に一万円札を無造作に入れられた時だ、と言われるほどです。通貨に対する信頼が、日本は安全で信頼できる社会といわれることの基礎になっていると思います。

川原啓：そういうところが日本に対する信頼につながっているのですね。

渡部：プリペイド型電子マネーも普及していますが、通貨の流通額はあまり減っていません。特に震災後、現金志向が増えているようです。電子マネーも便利ですが、最近ではコンビニでもお金をおろせるので、その利便性も高まっているのでしょう。

今後のUD政策

渡部：次回の改刷に向けて、「すべての人が使いやすい通貨」を目指し、紙幣の寸法、色、デザインなどの研究を実施しています。検討を深め、より使いやすい紙幣を追及してい

きたいです。

川原啓：国際会議の展示会場では、ぜひ一般市民にも理解できるような展示をしていただきたいですね。

渡部：財務省は役所を相手にする「制度官庁」と言われており、あまり国民の皆さんとの直接の接点がありません。ですので、展示では通貨などわかりやすいことを切り口に、皆さんに財務省の政策等を訴えていきたいと思えます。(了)

※財務省の通貨に関する取り組みは以下のサイトをご覧ください↓

<http://www.mof.go.jp/currency/>

※東日本大震災復興事業記念貨幣のデザインについてはこちらをご覧ください↓

http://www.mof.go.jp/currency/coin/commemorative_coin/earthquake_reconstruction/kk240529.htm

IAUD 2012年6月の予定

- 1日(金) 13時半～標準化WG定例会 (IAUDサロン)
- 7日(木) 14時半～メディアのUDPJ定例会 (IAUDサロン)
- 8日(金) 18時半～メディアのUDPJ「色のUDFC」(GEOCセミナースペース)
- 13日(水) 14時～衣のUDPJ定例会 (IAUDサロン)

メンバー募集中の研究部会・委員会はこちらをご覧ください↓

<http://www.iaud.net/news-f/archives/1204/17-134308.php>

次号は6月発行予定

特集：メディアのUDPJ「色のUDFC」開催報告／労働環境PJ「スマートハウス見学会&テレワークワークショップ」開催報告(予定)

無断転載禁止

IAUD 情報交流センター (IAUD サロン) :
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階
電話 : 03-5541-5846 FAX : 03-5541-5847 e-mail : salon@iaud.net